

1 人口動態統計の概況

我が国では、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の5種類の「人口動態事象」について、人口動態統計を作成している。

出生・死亡・婚姻及び離婚については「戸籍法」により、死産については「死産の届出に関する規程」によって、それぞれ市区町村長に届け出られる。市区町村長は、これらの届書及び出生証明書・死亡診断書・死産証書等の関係書類に基づいて「人口動態調査票」を作成する。調査票は、地域保健活動の基礎資料として利用されるため、保健所長を経由して都道府県知事に提出され、さらに厚生労働大臣に提出される。厚生労働省では、これらの調査票を集計して人口動態統計を作成している。

本県及び全国における令和6(2024)年の人口動態の概況は、表1、表2に示すとおりである。

表 1 栃木県人口動態の概況

	実 数			率					平均発生間隔
	令和6年 2024 (A)	令和5年 2023 (B)	増 減 (A－B)	令和6年 2024 (C)	全国順位	令和5年 2023 (D)	全国順位	増減 (C－D)	令和6年 2024
出 生	9,262	9,958	▲ 696	5.1	39	5.4	39	▲ 0.3	56分 45秒
死 亡	25,557	25,049	508	14.0	32	13.6	32	0.4	20分 33秒
自 然 増 減	▲ 16,295	▲ 15,091	▲ 1,204	▲ 8.9	20	▲ 8.2	20	▲ 0.7	—
乳 児 死 亡	16	12	4	1.7	29	1.2	45	0.5	547時間 30分 00秒
新 生 児 死 亡	8	3	5	0.9	28	0.3	46	0.6	1,095時間 00分 00秒
死 産	208	208	0	22.0	23	20.5	24	1.5	42時間 06分 55秒
周 産 期 死 亡	33	35	▲ 2	3.6	18	3.5	15	0.1	265時間 27分 16秒
婚 姻	6,537	6,594	▲ 57	3.6	21	3.6	17	0.0	1時間 20分 24秒
離 婚	2,748	2,732	16	1.50	25	1.48	24	0.02	3時間 11分 15秒

注：率算出に用いた人口 人口推計(令和6(2024)年10月1日現在)(総務省統計局) 日本人人口(栃木県) 1,830,000人

	令和6年 2024		令和5年 2023		増 減	
	率	全国順位	率	全国順位	率	全国順位
合計特殊出生率	1.15	35	1.19	38	▲ 0.04	3位↗

注：率算出に用いた人口 人口推計(令和6(2024)年10月1日現在)(総務省統計局) 5歳階級別の女性の日本人人口(栃木県)

表 2 全国人口動態統計の概況

	実 数			率			平均発生間隔
	令和6年 2024 (A)	令和5年 2023 (B)	増減 (A－B)	令和6年 2024 (C)	令和5年 2023 (D)	増減 (C－D)	令和6年 2024
出 生	686,173	727,288	▲ 41,115	5.7	6.0	▲ 0.3	46秒
死 亡	1,605,378	1,576,016	29,362	13.3	13.0	0.3	20秒
自 然 増 減	▲ 919,205	▲ 848,728	▲ 70,477	▲ 7.6	▲ 7.0	▲ 0.6	—
乳 児 死 亡	1,266	1,326	▲ 60	1.8	1.8	0.0	6時間 55分10秒
新 生 児 死 亡	637	600	37	0.9	0.8	0.1	13時間 45分7秒
死 産	15,323	15,534	▲ 211	21.8	20.9	0.9	34分 18秒
周 産 期 死 亡	2,285	2,404	▲ 119	3.3	3.3	0.0	3時間 50分1秒
婚 姻	485,092	474,741	10,351	4.0	3.9	0.1	1分 05秒
離 婚	185,904	183,814	2,090	1.55	1.52	0.03	2分 50秒

注：率算出に用いた1 人口推計(令和6(2024)年10月1日現在)(総務省統計局) 日本人人口(全国) 120,295,592人

	令和6年 2024	令和5年 2023	増 減
合計特殊出生率	1.15	1.20	▲ 0.05

注：率算出に用いた人口 人口推計(令和6(2024)年10月1日現在)(総務省統計局) 各歳別の女性の日本人人口(全国)

2 出 生

(1) 出生数及び出生率

出生数は9,262人で、前年(9,958人)より696人減少し、出生率(人口千対)は5.1で、前年(5.4)を0.3下回った。

出生率を年次推移でみると、昭和48(1973)年の19.3から減少を続け、平成17(2005)年に9.0を、平成25(2013)年に8.0を下回り、令和元(2019)年に6.6と初めて7.0を下回った。

(2) 都道府県別にみた出生率

都道府県別に出生率をみると、本県の5.1は全国で39位であり、全国の5.7を0.6下回った。出生率の最も高い都道府県は沖縄県の8.2で、次いで福岡県と滋賀県の6.5となっている。また、最も低い都道府県は秋田県の3.7で、次いで岩手県の4.3となっている。

3 死 亡

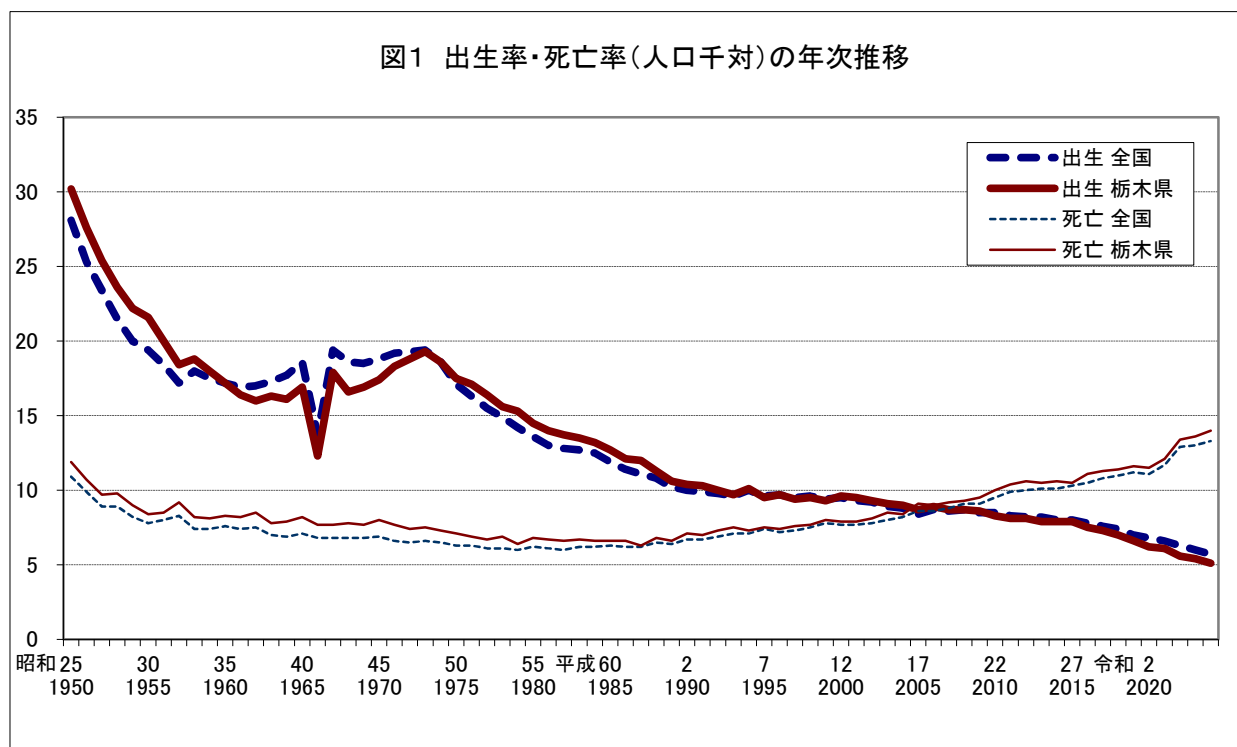
(1) 死亡数及び死亡率

死亡数は25,557人で、前年(25,049人)より508人増加し、死亡率(人口千対)は14.0で、前年(13.6)を0.4上回った。

死亡率を年次推移でみると、昭和62(1987)年に過去最低の6.3まで低下した後、前年比増減を繰り返しながらゆるやかに上昇してきている。

(2) 都道府県別にみた死亡率

都道府県別に死亡率をみると、本県の14.0は全国で32位であり、全国の13.3を0.7上回った。死亡率の最も高い都道府県は秋田県の19.6で、次いで青森県の17.7となっている。また、最も低い都道府県は東京都の10.4で、次いで沖縄県の10.8となっている。



資料：人口動態統計

(3) 死因別死亡

栃木県の死因順位を性別にみると、男性は第1位が悪性新生物＜腫瘍＞、第2位が心疾患、第3位が脳血管疾患、女性は第1位が悪性新生物＜腫瘍＞、第2位が老衰、第3位が心疾患であった。

表3 性別死因順位、死亡数・率（人口10万対）の全国比較

[総数]			令和6(2024)年					
栃木県	全 国	死 因	栃 木 県			全 国		
死 因 順 位			死 亡 数	死 亡 率	割 合	死 亡 数	死 亡 率	割 合
総 数			25,557	1396.6	100.0	1,605,378	1334.5	100.0
1	1	悪性新生物＜腫瘍＞	5,997	327.7	23.5	384,111	319.3	23.9
2	2	心 疾 患	3,730	203.8	14.6	226,388	188.2	14.1
3	3	老 衰	3,249	177.5	12.7	206,887	172.0	12.9
4	4	脳 血 管 疾 患	2,058	112.5	8.1	102,821	85.5	6.4
5	5	肺 炎	1,390	76.0	5.4	80,176	66.6	5.0
6	6	誤 嚥 性 肺 炎	751	41.0	2.9	63,667	52.9	4.0
7	7	不 慮 の 事 故	622	34.0	2.4	45,743	38.0	2.8
8	8	新型コロナウイルス感染症	609	33.3	2.4	35,865	29.8	2.2
9	9	腎 不 全	441	24.1	1.7	29,665	24.7	1.8
10	12	間 質 性 肺 疾 患	426	23.3	1.7	24,395	20.3	1.5

[男]								
栃木県	全 国	死 因	栃 木 県			全 国		
死 因 順 位			死 亡 数	死 亡 率	割 合	死 亡 数	死 亡 率	割 合
総 数			13,275	1452.4	100.0	819,709	1402.4	100.0
1	1	悪性新生物＜腫瘍＞	3,540	387.3	26.7	221,786	379.4	27.1
2	2	心 疾 患	1,951	213.5	14.7	111,425	190.6	13.6
3	4	脳 血 管 疾 患	1,057	115.6	8.0	51,176	87.6	6.2
4	3	老 衰	889	97.3	6.7	58,793	100.6	7.2
5	5	肺 炎	826	90.4	6.2	46,529	79.6	5.7
6	6	誤 嚥 性 肺 炎	456	49.9	3.4	37,905	64.9	4.6
7	7	不 慮 の 事 故	371	40.6	2.8	25,985	44.5	3.2
8	8	新型コロナウイルス感染症	353	38.6	2.7	20,434	35.0	2.5
9	10	間 質 性 肺 疾 患	275	30.1	2.1	16,024	27.4	2.0
10	9	腎 不 全	249	27.2	1.9	16,037	27.4	2.0

[女]								
栃木県	全 国	死 因	栃 木 県			全 国		
死 因 順 位			死 亡 数	死 亡 率	割 合	死 亡 数	死 亡 率	割 合
総 数			12,282	1340.8	100.0	785,669	1270.4	100.0
1	1	悪性新生物＜腫瘍＞	2,457	268.2	20.0	162,325	262.5	20.7
2	2	老 衰	2,360	257.6	19.2	148,094	239.5	18.8
3	3	心 疾 患	1,779	194.2	14.5	114,963	185.9	14.6
4	4	脳 血 管 疾 患	1,001	109.3	8.2	51,645	83.5	6.6
5	5	肺 炎	564	61.6	4.6	33,647	54.4	4.3
6	6	誤 嚥 性 肺 炎	295	32.2	2.4	25,762	41.7	3.3
7	10	血管性及び詳細不明の認知症	270	29.5	2.2	15,405	24.9	2.0
8	9	新型コロナウイルス感染症	256	27.9	2.1	15,431	25.0	2.0
9	7	不 慮 の 事 故	251	27.4	2.0	19,758	31.9	2.5
10	8	アルツハイマー病	243	26.5	2.0	16,712	27.0	2.1

注：1）率算出に用いた人口 人口推計（令和6（2024）年10月1日現在）（総務省統計局）

全 国	総数 120,295,592 人	栃木県	総数 1,830,000 人
	男 58,449,924 人		男 914,000 人
	女 61,845,668 人		女 916,000 人

- 2）割合は死亡総数に対するものである。
- 3）「心疾患」は「心疾患（高血圧性を除く）」、「血管性等の認知症」は「血管性及び詳細不明の認知症」である。

(4) 三 大 死 因

死亡数を三大死因別にみると、悪性新生物＜腫瘍＞は 5,997人で前年より22人増加、心疾患は 3,730人で前年より58人増加、脳血管疾患は 2,058人で前年より27人減少となった。

表 4 三大死因死亡数・率（人口10万対）の年次推移（栃木県）

		三 大 死 因 計		悪性新生物＜腫瘍＞		心 疾 患		脳 血 管 疾 患	
		数	率	数	率	数	率	数	率
昭和	30（1955）年	5,011	323.8	1,294	83.6	1,140	73.7	2,577	166.5
	35（1960）	5,943	392.6	1,689	111.6	1,304	86.2	2,950	194.9
	40（1965）	6,697	440.1	1,773	116.5	1,425	93.6	3,499	229.9
	45（1970）	7,213	457.0	1,891	119.8	1,536	97.3	3,786	239.9
	50（1975）	7,202	424.1	2,096	123.4	1,557	91.7	3,549	209.0
	55（1980）	7,750	430.9	2,424	134.8	1,936	107.6	3,390	188.5
	60（1985）	7,844	416.4	2,800	148.6	2,207	117.2	2,837	150.6
	平成 2（1990）	8,402	436.3	3,302	171.5	2,617	135.9	2,483	128.9
	7（1995）	8,979	456.9	3,974	202.2	2,221	113.0	2,784	141.6
	11（1999）	9,622	483.8	4,449	223.7	2,558	128.6	2,615	131.5
	12（2000）	9,559	481.9	4,568	230.3	2,497	125.9	2,494	125.7
	13（2001）	9,745	490.4	4,659	234.5	2,494	125.5	2,592	130.4
	14（2002）	9,803	493.6	4,633	233.3	2,547	128.2	2,623	132.1
	15（2003）	10,280	517.6	4,918	247.6	2,713	136.6	2,649	133.4
	16（2004）	10,175	512.1	4,895	246.4	2,774	139.6	2,506	126.1
	17（2005）	10,668	536.0	4,989	250.7	3,046	153.0	2,633	132.3
	18（2006）	10,624	534.4	5,167	259.9	2,968	149.3	2,489	125.2
	19（2007）	10,799	544.0	5,293	266.6	3,022	152.2	2,484	125.1
	20（2008）	10,711	540.7	5,248	264.9	3,081	155.5	2,382	120.2
	21（2009）	10,815	547.0	5,257	265.9	3,167	160.2	2,391	120.9
	22（2010）	11,168	563.8	5,444	274.8	3,332	168.2	2,392	120.8
	23（2011）	11,398	577.1	5,535	280.3	3,437	174.0	2,426	122.8
	24（2012）	11,623	590.6	5,613	285.2	3,547	180.2	2,463	125.2
	25（2013）	11,209	571.6	5,628	287.0	3,339	170.3	2,242	114.3
	26（2014）	11,292	577.9	5,713	292.4	3,382	173.1	2,197	112.4
	27（2015）	11,134	571.7	5,506	282.7	3,386	173.9	2,242	115.1
	28（2016）	11,499	593.1	5,849	301.7	3,441	177.5	2,209	113.9
	29（2017）	11,626	602.4	5,792	300.1	3,601	186.6	2,233	115.7
	令和 30（2018）	11,454	596.9	5,789	301.7	3,549	184.9	2,116	110.3
	元（2019）	11,363	596.1	5,732	300.7	3,532	185.3	2,099	110.1
	2（2020）	11,168	590.4	5,790	306.1	3,376	178.5	2,002	105.8
	3（2021）	11,393	606.0	5,811	309.1	3,572	190.0	2,010	106.9
	4（2022）	11,951	640.8	6,054	324.6	3,810	204.3	2,087	111.9
	5（2023）	11,732	634.8	5,975	323.3	3,672	198.7	2,085	112.8
	6（2024）	11,785	644.0	5,997	327.7	3,730	203.8	2,058	112.5

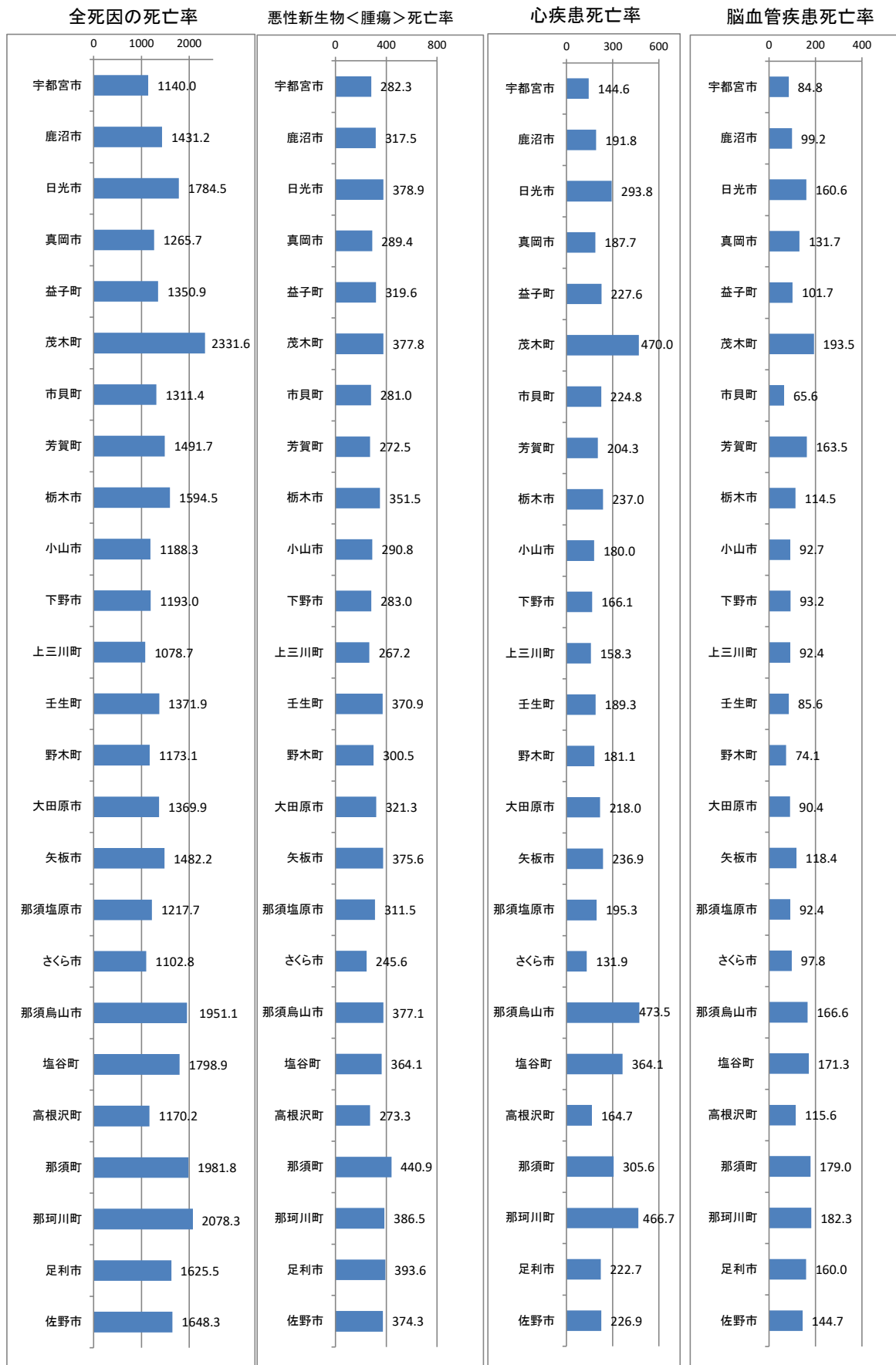
表 5 三大死因死亡数・率（人口10万対）の年次推移（全国）

		三 大 死 因 計		悪性新生物＜腫瘍＞		心 疾 患		脳 血 管 疾 患	
		数	率	数	率	数	率	数	率
昭和	30（1955）年	243,576	284.0	77,721	87.1	54,351	60.9	111,504	136.1
	35（1960）	312,282	334.3	93,773	100.4	68,400	73.2	150,109	160.7
	40（1965）	354,981	361.2	106,536	108.4	75,672	77.0	172,773	175.8
	45（1970）	390,703	378.9	119,977	116.3	89,411	86.7	181,315	175.8
	50（1975）	409,976	368.5	136,383	122.6	99,226	89.2	174,367	156.7
	55（1980）	447,586	384.8	161,764	139.1	123,505	106.2	162,317	139.5
	60（1985）	463,805	385.6	187,714	156.1	141,097	117.3	134,994	112.2
	平成 2（1990）	504,835	411.4	217,413	177.2	165,478	134.8	121,944	99.4
	7（1995）	548,780	440.0	263,022	211.6	139,206	112.0	146,552	117.9
	11（1999）	580,624	462.8	290,556	231.6	151,079	120.4	138,989	110.8
	12（2000）	574,754	457.6	295,484	235.2	146,741	116.8	132,529	105.5
	13（2001）	580,806	461.3	300,658	238.8	148,292	117.8	131,856	104.7
	14（2002）	587,343	466.1	304,568	241.7	152,518	121.0	130,257	103.4
	15（2003）	601,155	476.6	309,543	245.4	159,545	126.5	132,067	104.7
	16（2004）	609,038	482.7	320,358	253.9	159,625	126.5	129,055	102.3
	17（2005）	631,913	500.7	325,941	258.3	173,125	137.2	132,847	105.3
	18（2006）	630,606	499.9	329,314	261.0	173,024	137.2	128,268	101.7
	19（2007）	639,048	506.8	336,468	266.6	175,539	139.2	127,041	100.8
	20（2008）	651,914	517.6	342,963	272.3	181,928	144.4	127,023	100.9
	21（2009）	647,200	514.4	344,105	273.5	180,745	143.7	122,350	97.2
	22（2010）	666,320	527.2	353,499	279.7	189,360	149.8	123,461	97.7
	23（2011）	676,098	535.8	357,305	283.2	194,926	154.5	123,867	98.2
	24（2012）	681,401	541.0	360,963	286.6	198,836	157.9	121,602	96.5
	25（2013）	679,942	540.9	364,872	290.3	196,723	156.5	118,347	94.1
	26（2014）	679,235	541.5	368,103	293.5	196,925	157.0	114,207	91.1
	27（2015）	678,432	541.4	370,346	295.5	196,113	156.5	111,973	89.4
	28（2016）	680,312	544.1	372,986	298.3	198,006	158.4	109,320	87.4
	29（2017）	688,051	552.0	373,334	299.5	204,837	164.3	109,880	88.2
	30（2018）	689,991	555.4	373,584	300.7	208,221	167.6	108,186	87.1
	令和 元（2019）	690,691	558.2	376,425	304.2	207,714	167.9	106,552	86.1
	2（2020）	686,959	556.7	378,385	306.6	205,596	166.6	102,978	83.5
	3（2021）	700,810	570.8	381,505	310.7	214,710	174.9	104,595	85.2
	4（2022）	726,242	595.1	385,797	316.1	232,964	190.9	107,481	88.1
	5（2023）	718,185	592.6	382,504	315.6	231,148	190.7	104,533	86.3
	6（2024）	713320	593.0	384,111	319.3	226,388	188.2	102,821	85.5

注：率算出に用いた人口 人口推計（令和 6（2024）年10月1日現在）（総務省統計局）

資料：人口動態統計

図2 市町村別三大死因の死亡率(人口10万対)(令和6(2024)年)



* 資料:3統計表 第1章人口動態統計 第10節特定死因 第1-10-6表 より

表6 死因順位及び死亡率（人口10万対）の年次推移（栃木県）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
昭和30 (1955)	中枢神経系の血管損傷 166.5	悪性新生物 83.6	心臓の疾患 73.7	老 衰 64.0	胃炎、十二指腸炎、腸炎、大腸炎 46.5	新生児固有の疾患、性質不明の未熟児 44.7	全 結 核 39.6	肺 炎 34.8	不慮の障害 30.7	自殺及び自傷 22.9
35 (1960)	中枢神経系の血管損傷 194.9	悪性新生物 111.6	心臓の疾患 86.2	肺炎・気管支炎 57.3	老 衰 41.2	不慮の事故 40.8	胃炎、十二指腸炎、腸炎、大腸炎 32.4	全 結 核 22.7	新生児固有の疾患、性質不明の未熟児 20.7	腎炎・ネフローゼ 19.7
40 (1965)	中枢神経系の血管損傷 229.0	悪性新生物 116.5	心臓の疾患 93.6	不慮の事故 43.2	老 衰 42.8	肺炎・気管支炎 41.8	高血圧性疾患 23.2	全 結 核 21.7	新生児固有の疾患、性質不明の未熟児 16.1	自殺及び自傷 14.5
45 (1970)	脳血管疾患 239.9	悪性新生物 119.8	心 疾 患 97.3	不慮の事故 54.1	肺炎・気管支炎 47.9	老 衰 33.6	喘息 15.3	高血圧性疾患 14.7	自 殺 14.2	全 結 核 13.1
50 (1975)	脳血管疾患 209.0	悪性新生物 123.4	心 疾 患 91.7	肺炎・気管支炎 42.6	不慮の事故 37.8	老 衰 24.9	自 殺 18.4	肝 硬 変 17.3	高血圧性疾患 12.0	腎炎・ネフローゼ 11.5
55 (1980)	脳血管疾患 188.5	悪性新生物 134.8	心 疾 患 107.6	肺炎・気管支炎 37.5	不慮の事故 30.4	老 衰 24.5	自 殺 19.1	肝 硬 変 13.3	高血圧性疾患 12.7	腎炎・ネフローゼ 7.7
60 (1985)	脳血管疾患 150.6	悪性新生物 148.6	心 疾 患 117.2	肺炎・気管支炎 42.4	不慮の事故 27.4	老 衰 21.9	自 殺 20.5	肝 硬 変 12.8	高血圧性疾患 11.4	腎炎・ネフローゼ症候群及びネフローゼ 8.7
平成2 (1990)	悪性新生物 171.5	心 疾 患 135.9	脳血管疾患 128.9	肺炎・気管支炎 66.3	不慮の事故 30.0	老 衰 22.6	自 殺 18.5	肝 硬 変 13.2	腎炎・ネフローゼ症候群及びネフローゼ 10.7	高血圧性疾患 8.5
7 (1995)	悪性新生物 202.2	脳血管疾患 141.6	心 疾 患 113.0	肺 炎 63.7	不慮の事故 31.9	自 殺 18.7	老 衰 17.2	肝 疾 患 13.0	糖 尿 病 12.3	慢性閉塞性肺疾患 12.1
12 (2000)	悪性新生物 230.3	心 疾 患 125.9	脳血管疾患 125.7	肺 炎 72.8	不慮の事故 32.1	自 殺 25.6	老 衰 18.6	肝 疾 患 12.7	腎 不 全 11.0	慢性閉塞性肺疾患 11.0
17 (2005)	悪性新生物 250.7	心 疾 患 153	脳血管疾患 132.3	肺 炎 96.2	不慮の事故 34.4	老 衰 26.8	自 殺 24.9	腎 不 全 15.4	肝 疾 患 13.5	糖 尿 病 11.2
18 (2006)	悪性新生物 259.9	心 疾 患 149.3	脳血管疾患 125.2	肺 炎 89.9	不慮の事故 31.3	老 衰 29	自 殺 24.8	腎 不 全 17.2	肝 疾 患 13.7	糖 尿 病 13
19 (2007)	悪性新生物 266.6	心 疾 患 152.2	脳血管疾患 125.1	肺 炎 90.5	不慮の事故 29.9	老 衰 29.2	自 殺 26.6	腎 不 全 16.2	肝 疾 患 13.2	糖 尿 病 12.2
20 (2008)	悪性新生物 264.9	心 疾 患 155.5	脳血管疾患 120.2	肺 炎 96.8	不慮の事故 37.1	老 衰 29.4	自 殺 26.8	腎 不 全 18.1	糖 尿 病 11.8	慢性閉塞性肺疾患 11.5
21 (2009)	悪性新生物 265.9	心 疾 患 160.2	脳血管疾患 120.9	肺 炎 95.3	不慮の事故 36.5	老 衰 29.4	自 殺 27.8	腎 不 全 17.4	肝 疾 患 13.1	糖 尿 病 12.4
22 (2010)	悪性新生物 274.8	心 疾 患 168.2	脳血管疾患 120.8	肺 炎 102.8	不慮の事故 42.0	老 衰 33.3	自 殺 25.0	腎 不 全 17.7	慢性閉塞性肺疾患 13.5	肝 疾 患 13.2
23 (2011)	悪性新生物 280.3	心 疾 患 174.0	脳血管疾患 122.8	肺 炎 111.6	不慮の事故 49.8	老 衰 30.1	自 殺 24.3	腎 不 全 20.2	慢性閉塞性肺疾患 13.9	肝 疾 患 13.4
24 (2012)	悪性新生物 285.2	心 疾 患 180.2	脳血管疾患 125.2	肺 炎 101.4	不慮の事故 59.6	老 衰 28.5	自 殺 22.8	腎 不 全 20.1	肝 疾 患 14.6	慢性閉塞性肺疾患 14.1
25 (2013)	悪性新生物 287.0	心 疾 患 170.3	脳血管疾患 114.3	肺 炎 101.6	不慮の事故 68.0	老 衰 27.7	自 殺 22.6	腎 不 全 19.5	大動脈瘤及び解離 14.3	肝 疾 患 13.8
26 (2014)	悪性新生物 292.4	心 疾 患 173.1	脳血管疾患 112.4	肺 炎 101.3	不慮の事故 67.4	老 衰 28.3	自 殺 20.1	腎 不 全 19.4	慢性閉塞性肺疾患及び解離 14.2	大動脈瘤及び解離 13.8
27 (2015)	悪性新生物 282.7	心 疾 患 173.9	脳血管疾患 115.1	肺 炎 98.5	不慮の事故 71.9	老 衰 27.1	腎 不 全 21.1	自 殺 19.5	大動脈瘤及び解離 15.3	血管性及び詳細不明の症 12.8
28 (2016)	悪性新生物 301.7	心 疾 患 177.5	脳血管疾患 113.9	肺 炎 96.5	不慮の事故 85.1	老 衰 26.7	腎 不 全 21.4	自 殺 18.9	大動脈瘤及び解離 15.5	血管性及び詳細不明の症 14.4
29 (2017)	悪性新生物<腫瘍> 300.1	心 疾 患 186.6	脳血管疾患 115.7	老 衰 94.1	肺 炎 77.6	不慮の事故 28.9	誤嚥性肺炎 21.5	血管性及び詳細不明の症 21.1	腎 不 全 21.1	自 殺 18.1
30 (2018)	悪性新生物<腫瘍> 301.7	心 疾 患 184.9	脳血管疾患 110.3	老 衰 102.3	肺 炎 77.1	不慮の事故 30.1	誤嚥性肺炎 23.4	血管性等の認知症 21.5	腎 不 全 21.2	アルツハイマー病 18.0
令和元 (2019)	悪性新生物<腫瘍> 300.7	心 疾 患 185.3	脳血管疾患 110.1	老 衰 109.8	肺 炎 73.9	不慮の事故 30.9	誤嚥性肺炎 23.3	血管性等の認知症 22.7	腎 不 全 20.5	アルツハイマー病 19.4
2 (2020)	悪性新生物<腫瘍> 306.1	心 疾 患 178.5	老 衰 115.0	脳血管疾患 105.8	肺 炎 64.3	不慮の事故 28.7	誤嚥性肺炎 26.5	血管性等の認知症 22.9	腎 不 全 19.6	アルツハイマー病 17.8
3 (2021)	悪性新生物<腫瘍> 309.1	心 疾 患 190.0	老 衰 130.9	脳血管疾患 106.9	肺 炎 62.9	不慮の事故 30.5	誤嚥性肺炎 29.7	血管性等の認知症 23.2	腎 不 全 22.8	アルツハイマー病 18.5
4 (2022)	悪性新生物<腫瘍> 324.6	心 疾 患 204.3	老 衰 157.2	脳血管疾患 111.9	肺 炎 63.0	不慮の事故 33.5	誤嚥性肺炎 33.1	血管性等の認知症 25.2	腎 不 全 25.1	アルツハイマー病 22.0
5 (2023)	悪性新生物<腫瘍> 323.3	心 疾 患 198.7	老 衰 159.5	脳血管疾患 112.8	肺 炎 66.6	誤嚥性肺炎 38.0	不慮の事故 35.6	新型コロナウイルス感染症 35.2	血管性等の認知症 26.1	腎不全 23.6
6 (2024)	悪性新生物<腫瘍> 327.7	心 疾 患 203.8	老 衰 177.5	脳血管疾患 112.5	肺 炎 76.0	誤嚥性肺炎 41.0	不慮の事故 34.0	新型コロナウイルス感染症 33.3	腎 不 全 24.1	間 質 性 肺 疾 患 23.3

4 乳児死亡及び新生児死亡

(1) 乳児死亡数及び乳児死亡率、新生児死亡数及び新生児死亡率

乳児死亡数は16人で、前年(12人)より4人増加し、乳児死亡率(出生千対)は1.7で、前年(1.2)を0.5上回った。

また、乳児死亡のうち新生児死亡数は8人で、前年(3人)より5人増加し、新生児死亡率(出生千対)は0.9で、前年(0.3)を0.6上回った。

乳児死亡率及び新生児死亡率を年次推移でみると、両率とも概ね減少傾向が続いている。

(2) 都道府県別にみた乳児死亡率及び新生児死亡率

都道府県別に乳児死亡率をみると、本県の1.7は全国29位であり、全国の1.8を0.1下回った。

乳児死亡率の高い都道府県は奈良県の3.3で、次いで和歌山県の3.1となっている。

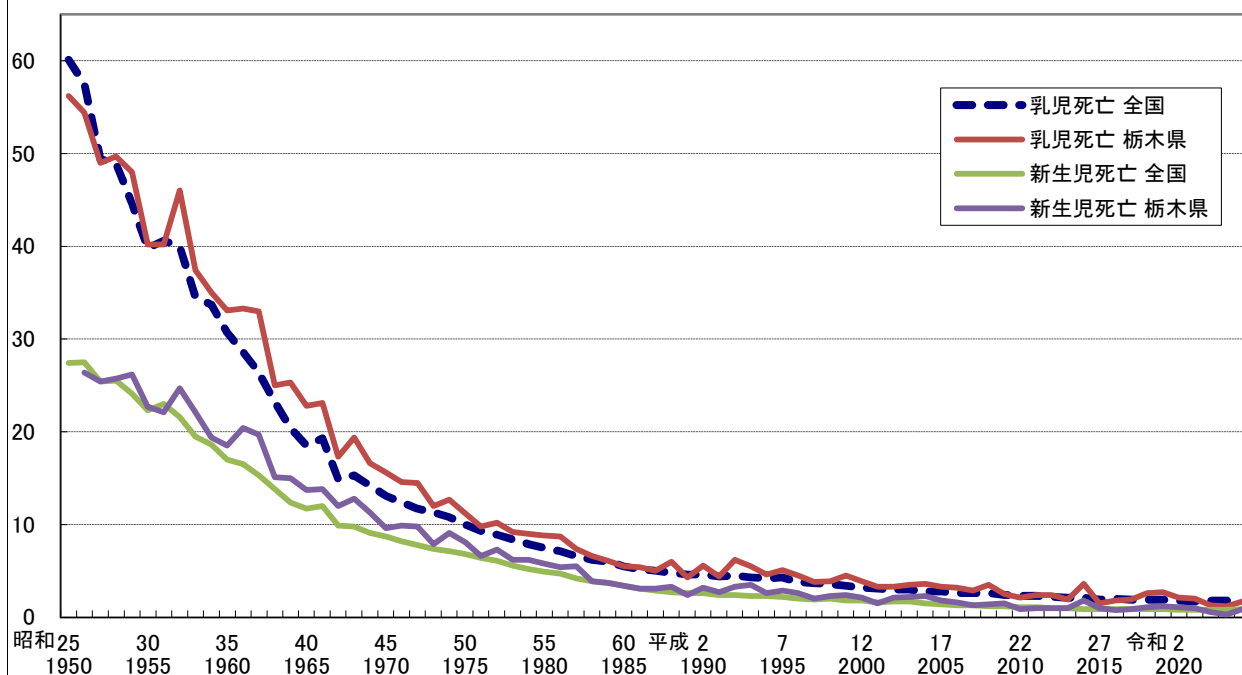
また、最も低い都道府県は福井県の0.7で、次いで島根県の0.8となっている。

新生児死亡率については、本県の0.9は全国28位であり、全国の0.9と同率であった。

新生児死亡率の高い都道府県は滋賀県の1.7で、次いで山形県の1.7となっている。

また、最も低い都道府県は島根県の0.3で、次いで秋田県の0.3となっている。

図3 乳児死亡・新生児死亡(出生千対)



5 死 産

(1) 死産数及び死産率

死産数は208胎で、前年(208胎)と同数であり、死産率(出産(出生+死産)千対)は22.0で、前年(20.5)を1.5上回った。

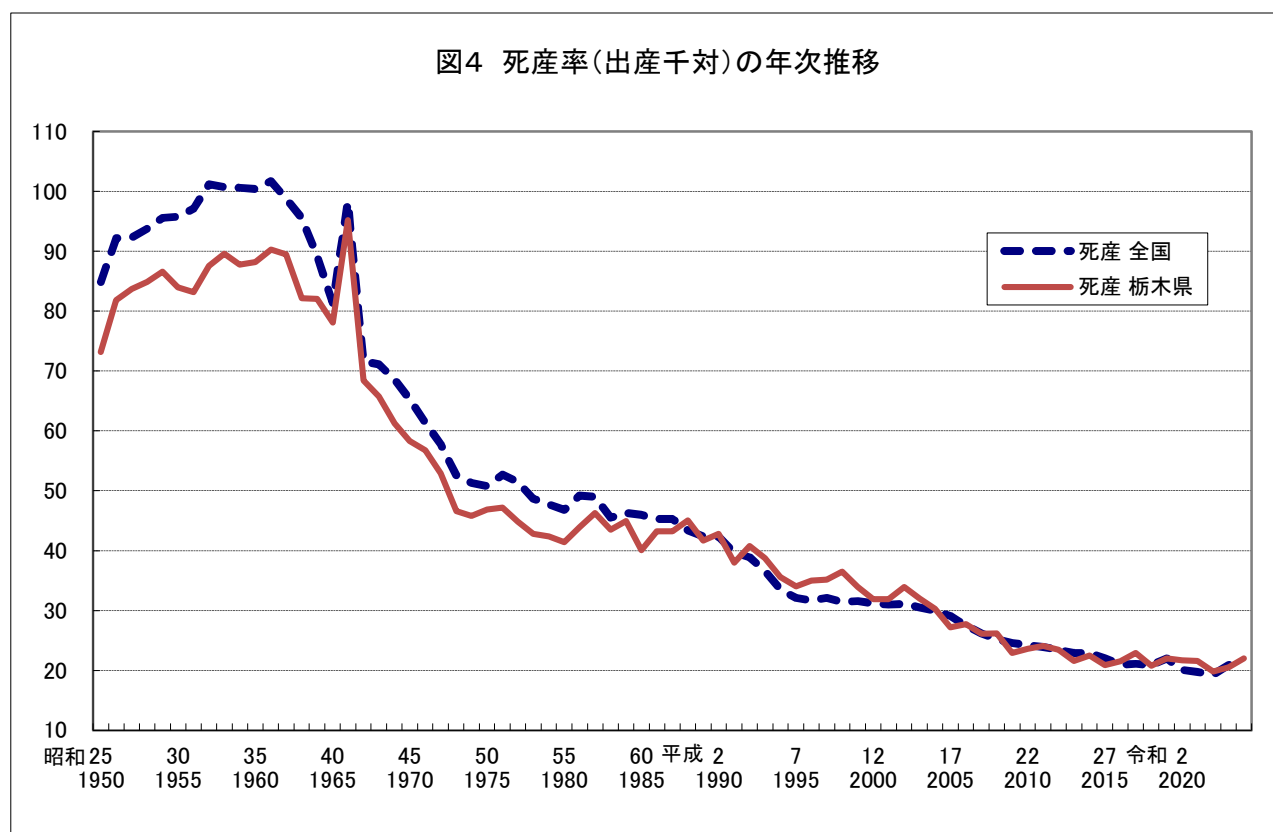
死産率を年次推移でみると、昭和41(1966)年の95.2をピークに減少してきている。

(2) 都道府県別にみた死産率

都道府県別に死産率をみると、本県の22.0は全国で23位であり、全国の21.8を0.2上回った。

死産率の最も高い都道府県は熊本県の26.2で、次いで北海道の25.8となっている。

また、最も低い都道府県は富山県の15.1で、次いで静岡県の17.1となっている。



6 婚 姻

(1) 婚姻数及び婚姻率

婚姻件数は6,537組で、前年(6,594組)より57組減少し、婚姻率(人口千対)は3.6で、前年(3.6)と同率であった。

婚姻率を年次推移でみると、昭和22(1947)年の12.1をピークに減少を続け、昭和62(1987)～平成元(1989)年に5.6となった後は微増したが、平成12(2000)年及び平成13(2001)年の6.4を境にまた減少に転じ、令和5(2023)年は過去最低の3.6となった。

(2) 都道府県別にみた婚姻率

都道府県別に婚姻率をみると、本県の3.6は全国で21位であり、全国の4.0を0.4下回った。

婚姻率の最も高い都道府県は東京都の5.7で、次いで大阪府の4.7となっている。

また、最も低い都道府県は秋田県の2.5で、次いで青森県の2.9となっている。

7 離 婚

(1) 離婚数及び離婚率

離婚件数は2,748組で、前年(2,732組)より16組増加し、離婚率(人口千対)は1.50で、前年(1.48)を0.02上回った。

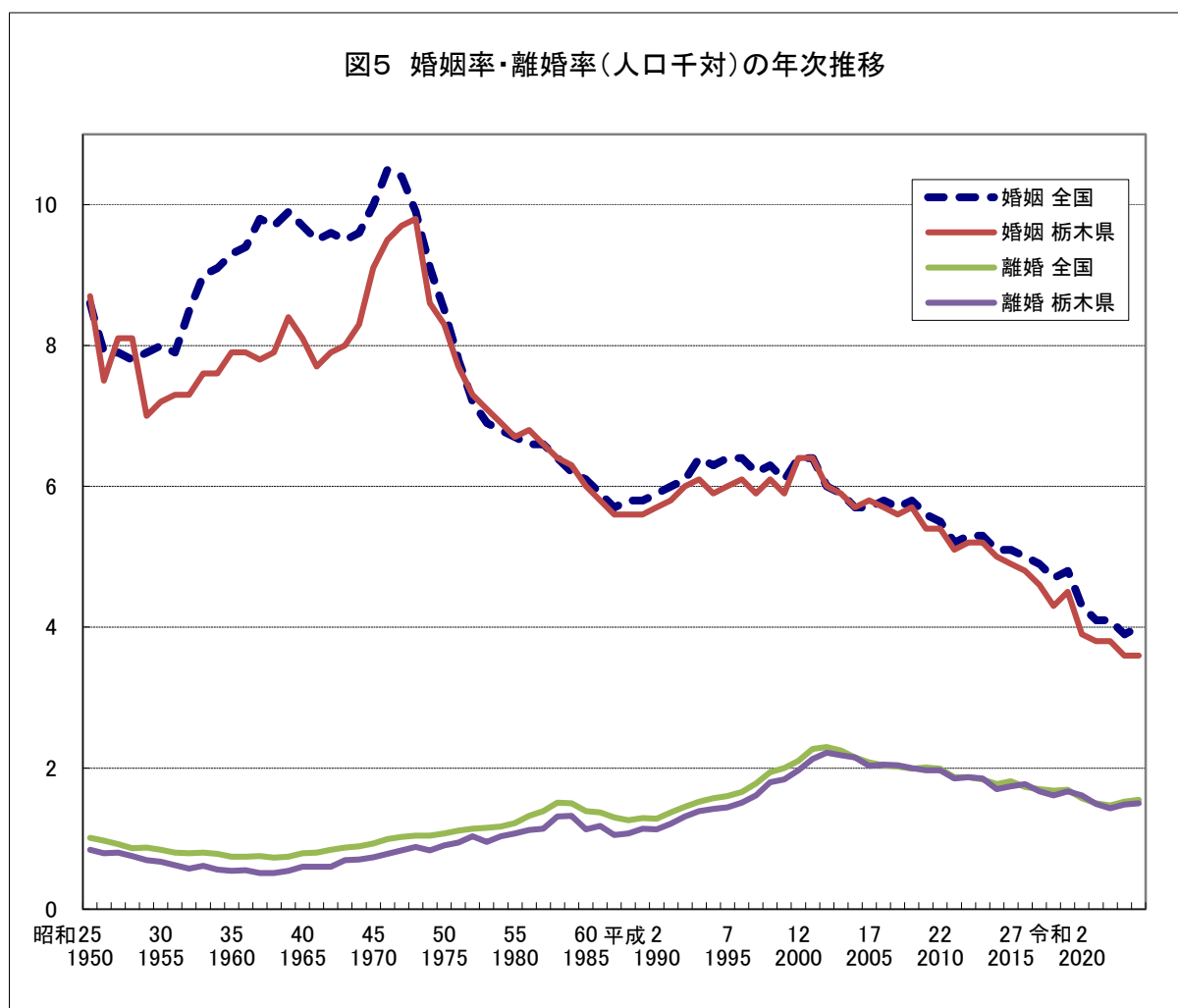
離婚率を年次推移でみると、平成14(2002)年の2.22をピークとしてそれ以降は減少傾向が続いている。

(2) 都道府県別にみた離婚率

都道府県別に離婚率をみると、本県の1.50は全国で25位であり、全国の1.55を0.05下回った。離婚率の最も高い都道府県は沖縄県の2.24で、次いで大阪府の1.79となっている。

また、最も低い都道府県は、富山県の1.13で、次いで秋田県の1.17となっている。

図5 婚姻率・離婚率(人口千対)の年次推移



8 生 命 表

(1) 主な年齢の平均余命

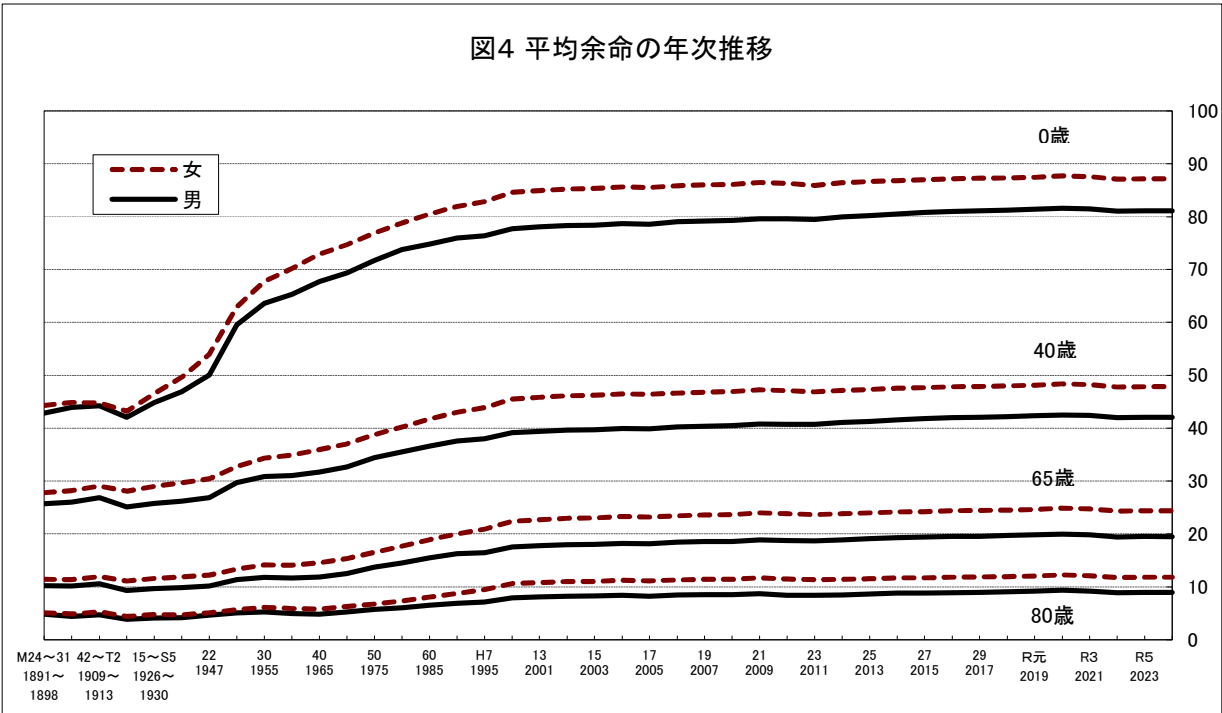
令和6年簡易生命表によると、男の平均寿命は81.09年、女の平均寿命は87.13年となり前年と比較して男は同数、女は0.01年下回った。
また、平均寿命の男女差は、6.04年で前年より0.01年縮小している。（表7）

表7 主な年齢の平均余命とその延び（全国）

（単位：年）

年齢	男			女			男女差（女－男）		
	R 6 年 (2024) (A)	R 5 年 (2023) (B)	延び (A-B)	R 6 年 (2024) (C)	R 5 年 (2023) (D)	延び (C-D)	R 6 年 (2024) E (C-A)	R 5 年 (2023) F (D-B)	差 (E-F)
0歳	81.09	81.09	0.00	87.13	87.14	△ 0.01	6.04	6.05	△ 0.01
5歳	76.29	76.30	△ 0.01	82.34	82.35	△ 0.01	6.05	6.05	0.00
10歳	71.32	71.33	△ 0.01	77.37	77.37	0.00	6.05	6.04	0.01
15歳	66.36	66.36	0.00	72.41	72.40	0.01	6.05	6.04	0.01
20歳	61.44	61.45	△ 0.01	67.48	67.48	0.00	6.04	6.03	0.01
25歳	56.58	56.59	△ 0.01	62.58	62.57	0.01	6.0	5.98	0.02
30歳	51.71	51.72	△ 0.01	57.67	57.65	0.02	6.0	5.93	0.03
35歳	46.85	46.87	△ 0.02	52.76	52.74	0.02	5.91	5.87	0.04
40歳	42.03	42.06	△ 0.03	47.88	47.85	0.03	5.85	5.79	0.06
45歳	37.26	37.28	△ 0.02	43.03	43.01	0.02	5.77	5.73	0.04
50歳	32.57	32.60	△ 0.03	38.24	38.23	0.01	5.67	5.63	0.04
55歳	28.01	28.05	△ 0.04	33.54	33.54	0.00	5.53	5.49	0.04
60歳	23.63	23.68	△ 0.05	28.92	28.91	0.01	5.29	5.23	0.06
65歳	19.47	19.52	△ 0.05	24.38	24.38	0.00	4.91	4.86	0.05
70歳	15.60	15.65	△ 0.05	19.97	19.96	0.01	4.37	4.31	0.06
75歳	12.08	12.13	△ 0.05	15.75	15.74	0.01	3.67	3.61	0.06
80歳	8.96	8.98	△ 0.02	11.83	11.81	0.02	2.87	2.83	0.04
85歳	6.31	6.29	0.02	8.37	8.33	0.04	2.06	2.04	0.02
90歳	4.27	4.22	0.05	5.55	5.53	0.02	1.28	1.31	△ 0.03
95歳	2.78	2.75	0.03	3.47	3.45	0.02	0.69	0.70	△ 0.01
100歳	1.69	1.72	△ 0.03	2.08	2.13	△ 0.05	0.39	0.41	△ 0.02

資料：令和2年完全生命表、令和6年簡易生命表



(2) 特定死因を除去した場合の平均余命の延び

ある死因で死亡することがなくなると、その死因によって死亡していた者は、その死亡年齢以後に他の死因で死亡することになる。その結果死亡時期が繰り越され、平均余命が延びることになる。この延びは、その死因のために失われた平均余命としてみることができ、これによって各死因がどの程度平均余命に影響しているかを測ることができる。

表 8 特定死因を除去した場合の平均余命の延び（0歳・65歳・75歳・90歳）（全国）

（単位：年）

主 な 死 因	年齢	男					女				
		2 年 2020	3 年 2021	4 年 2022	5 年 2023	6 年 2024	2 年 2020	3 年 2021	4 年 2022	5 年 2023	6 年 2024
悪 性 新 生 物	0歳	3.55	3.43	3.19	3.16	3.11	2.87	2.81	2.74	2.69	2.68
	65	2.93	2.83	2.62	2.61	2.57	2.02	1.97	1.89	1.87	1.87
	75	2.03	1.95	1.80	1.80	1.79	1.41	1.37	1.29	1.28	1.29
	90	0.62	0.57	0.50	0.50	0.50	0.44	0.42	0.37	0.37	0.37
心 疾 患 （高血圧性を除く）	0歳	1.44	1.42	1.41	1.42	1.37	1.26	1.23	1.19	1.17	1.12
	65	1.12	1.10	1.09	1.09	1.06	1.20	1.16	1.11	1.09	1.04
	75	0.93	0.92	0.89	0.89	0.86	1.13	1.09	1.04	1.02	0.97
	90	0.61	0.60	0.54	0.55	0.52	0.80	0.77	0.71	0.69	0.65
脳 血 管 疾 患	0歳	0.71	0.69	0.66	0.65	0.64	0.66	0.62	0.58	0.57	0.55
	65	0.55	0.53	0.50	0.49	0.47	0.57	0.54	0.50	0.49	0.47
	75	0.45	0.44	0.40	0.39	0.37	0.51	0.48	0.45	0.43	0.41
	90	0.22	0.21	0.18	0.17	0.17	0.31	0.29	0.25	0.24	0.23
肺 炎	0歳	0.49	0.43	0.38	0.39	0.42	0.34	0.29	0.26	0.27	0.29
	65	0.49	0.43	0.38	0.39	0.41	0.34	0.29	0.26	0.27	0.28
	75	0.48	0.42	0.37	0.38	0.39	0.33	0.29	0.25	0.26	0.27
	90	0.36	0.31	0.26	0.26	0.27	0.25	0.20	0.18	0.18	0.18
不 慮 の 事 故	0歳	0.40	0.37	0.38	0.40	0.39	0.24	0.23	0.25	0.25	0.26
	65	0.22	0.21	0.21	0.22	0.22	0.18	0.17	0.18	0.18	0.18
	75	0.17	0.17	0.17	0.18	0.18	0.15	0.14	0.15	0.15	0.16
	90	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07
交通事故（再掲）	0歳	0.09	0.08	0.08	0.08	0.08	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
	65	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	75	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	90	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
自 殺	0歳	0.58	0.58	0.60	0.60	0.56	0.33	0.34	0.34	0.34	0.34
	65	0.06	0.06	0.06	0.06	0.05	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03
	75	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01
	90	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
慢 性 閉 塞 性 肺 疾 患 （COPD）	0歳	0.14	0.14	0.13	0.13	0.13	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
	65	0.15	0.14	0.13	0.14	0.13	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
	75	0.14	0.13	0.12	0.13	0.12	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02
	90	0.07	0.07	0.06	0.06	0.05	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
腎 不 全	0歳	0.16	0.16	0.15	0.15	0.15	0.14	0.14	0.13	0.13	0.12
	65	0.15	0.15	0.15	0.14	0.14	0.14	0.13	0.13	0.13	0.12
	75	0.14	0.14	0.13	0.13	0.13	0.13	0.12	0.12	0.12	0.11
	90	0.09	0.09	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07
大 動 脈 瘤 及 び 解 離	0歳	0.14	0.14	0.13	0.13	0.14	0.12	0.12	0.11	0.11	0.11
	65	0.10	0.10	0.09	0.09	0.09	0.11	0.11	0.10	0.10	0.10
	75	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07	0.09	0.09	0.08	0.09	0.09
	90	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03
肝 疾 患	0歳	0.24	0.24	0.25	0.24	0.24	0.11	0.12	0.12	0.11	0.12
	65	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.07	0.07	0.07	0.07	0.07
	75	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
	90	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
糖 尿 病	0歳	0.12	0.11	0.12	0.12	0.12	0.08	0.08	0.08	0.08	0.07
	65	0.08	0.08	0.09	0.08	0.08	0.07	0.07	0.07	0.07	0.06
	75	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.05	0.05
	90	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.02	0.02	0.02
高血圧性疾患	0歳	0.06	0.05	0.06	0.06	0.06	0.06	0.05	0.05	0.05	0.05
	65	0.04	0.04	0.05	0.05	0.05	0.06	0.05	0.05	0.05	0.05
	75	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
	90	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04
結 核	0歳	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00
	65	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	75	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	90	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00
新 型 コ ロ ナ ウ イ ル ス 感 染 症 （COVID-19）	0歳	0.03	0.14	0.24	0.19	0.18	0.02	0.09	0.20	0.16	0.13
	65	0.02	0.10	0.22	0.18	0.18	0.01	0.07	0.18	0.15	0.12
	75	0.02	0.07	0.21	0.17	0.17	0.01	0.06	0.17	0.14	0.12
	90	0.01	0.03	0.14	0.11	0.11	0.01	0.03	0.13	0.10	0.08
3 大 死 因 （悪性新生物） （心疾患） （脳血管疾患）	0歳	6.69	6.49	6.11	6.06	5.90	5.46	5.28	5.07	4.96	4.86
	65	5.50	5.32	4.97	4.93	4.79	4.39	4.24	4.01	3.93	3.83
	75	4.15	4.01	3.70	3.67	3.57	3.58	3.44	3.22	3.15	3.06
	90	1.79	1.70	1.48	1.47	1.42	1.84	1.75	1.55	1.51	1.44

注：3大死因のそれぞれの死因を単独に除去した場合には、その他の2死因は除去されていない（例えば、悪性新生物を除去したとしても心疾患や脳血管疾患での死亡はあるものとする）ことから、3大死因のそれぞれの死因を除去した場合の平均余命の延びを合計したものは、3大死因を同時に除去した場合の平均寿命の延びよりも小さいものとなる。